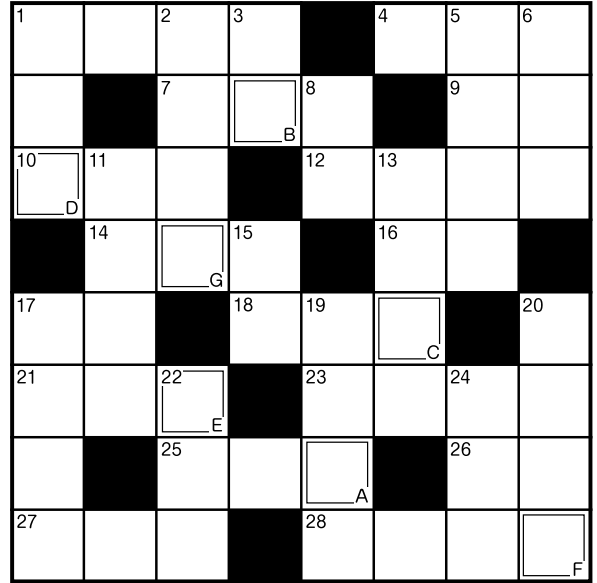


(2025年6月)

ヨコのヒント

- 外国から国内に入ってくる商品に国がかかる税金のことを〇〇〇〇といいます。
- 開幕した大阪・関西万博。日本館の目玉の一つが、日本の南極観測隊が発見した「〇〇〇の石」です。
- 九州最北端に位置する〇〇〇は長崎県に属する島。古くから大陸との交流地となってきました。
- 愛知県の知多半島と三重県の志摩半島に囲まれた〇〇湾。名古屋港があります。
- あることがきっかけで、それまでわからなかったことが急にわかるようになる。さて、目から落ちたものは？
- 1297年に鎌倉幕府が出した永仁の〇〇〇〇令。借金に苦しむ御家人たちの救済が目的でした。
- その場の雰囲気、様子。「穏やかな〇〇〇が流れる」「場の〇〇〇を読む」などと使います。
- 和歌山・奈良・三重の3県にまたがる〇〇山地。この山地の霊場と参詣道が世界遺産になっています。
- 魚、□写真、□菜、□二才。すべて熟語です。□に共通して入る、色を表す漢字の読みは？
- 害虫などを追い払ったり殺したりして、取り除くこと。
- 豊臣秀吉が行った太閤〇〇〇。全国の耕地の面積や収穫高等を調査しました。
- 桑を栽培し、蚕を飼育して繭をとる産業のこと。
- ある行動を起こす原因になった事柄・きっかけ。
- 軽かったり、重かったり、堅かったり、滑ったり。さて、この体の一部は？
- 決まった家を持たず、あちらこちらをさまよい歩くこと。
- 動作を起こそうとするとときに発する掛け声。「〇〇〇〇と立ち上がる」などと使います。



【答え】

A	B	C	D	E	F	G

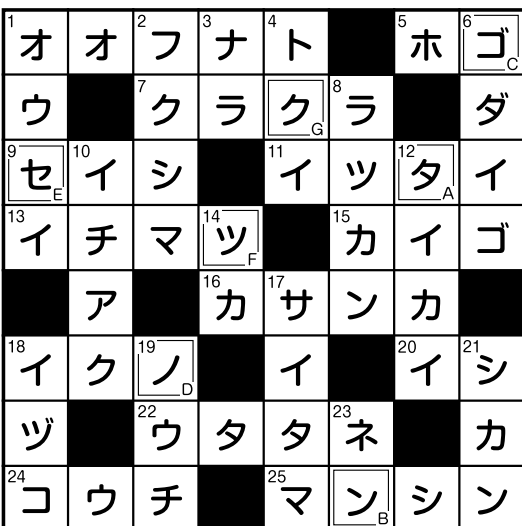
タテのヒント

- 働き過ぎて疲れること。極端な長時間労働をなくし、多様で柔軟な働き方を選択できる社会の実現をめざすのが「働き方改革」です。
- 仲たがいをしして付き合いを断つこと。
- 何とか成し遂げたい。そんなとき「かじりつく」ものは？
- あらかじめ学習したデータを基に、画像・文章・音楽などを作成する〇〇〇〇AI。
- 元氣、勢い。「〇〇〇〇の良い掛け声」などを使います。
- 要点を正確にとらえるという意味の「〇〇を射る」。
- 世界遺産にも登録されている京都・北山にある〇〇〇〇寺。
- 「金閣寺」の別称で知られます。苦しい立場。「〇〇〇〇に立つ」「〇〇〇〇を乗り越える」などを使います。
- 〇〇は一時の恥。聞かぬは一生の恥。
- 「夏の夜はまだ宵ながら〇〇〇を雲のいつに」月宿るらむ」(清原深養父)
- 邪魔なもの、余計なものを取り除くこと。「川のごみを〇〇〇する」などを使います。
- 特に目立って、はっきりしている様子。「努力の結果が〇〇〇〇に表れる」などを使います。
- 宇宙の中心には太陽があり、地球は自転しながらその周りを回っているとする考え方を〇〇〇〇説といいます。
- 〇〇〇、策におはれる。「はかりごとをするのが得意な人は、そのためにかえって失敗する」という意味です。

前月号の解答と解説

【答え】

A	B	C	D	E	F	G
タ	ン	ゴ	ノ	セ	ツ	ク



★端午の節句

毎年5月5日は端午の節句。「節句」とは、奈良時代のころに中国から日本に伝わってきた、季節の節目となる日で、端午の節句のほかに、4月号で紹介した3月3日の「ひな祭り(桃の節句)」や7月7日の「七夕」などがあります。「端午」の「午」は「うま」とも読み、「午の月」は昔の暦で5月。「端午」は5月の端(はし)、つまり最初の「午の日」です。その日は毎年異なり、5日とは限りません(今年は5月1日)が、「午」は「ご(五)」とも読むことから、日本では5月5日に定着しました。当初は、病気や災いから子どもを守る日として、香りが強く、病気を寄せつけないといわれるショウブの葉を軒先に飾ったり、お風呂に入れたりしていました。そうしたなか、ショウブが「勝負」や、武道を重んじるという意味の「尚武」に通じることから、次第に男児の行事となり、江戸時代になると、よろい・かぶと、武者人形、こいのぼりなどを飾るようになりました。なお、こいのぼりは、中国の黄河上流にある竜門という急流をのぼったコイが竜になったという中国の故事から、出世のたとえとされています。

ヨコ

- 大船渡(おおふなと)
- 保護(ほご)
- くらくら
- 製糸(せいし)
- 一体(いったい)
- 一抹(いちまつ)
- 介護(かいご)
- 過酸化(かさんか)

タテ

- 生野(いくの)
- 石(いし)
- うたた寝(うたたね)
- 公地(こうち)
- 慢心(まんしん)
- 王政(おうせい)
- 福島(ふくしま)
- 奈良(なら)
- 得意(とくい)
- 後醍醐(ごだいご)
- 樂觀(らっかん)
- 一握(いちあく)
- 大海(たいかい)
- つか
- さいたま
- いづこ
- 農地(のうち)
- 師管(しかん)
- 念(ねん)